



指導されています。一例を挙げると、池田の国会での参考人招致（しようち）を阻（はば）むために、公明党（当時新進党）の多数の国会議員が、国会内でスクラムを組み、審議を妨害し、世間のひんしゆくを買ったことは周知の事実です。

◇創価学会の実態は、口先では「人間主義」を標ぼうしながら、実際は創価学会に少しでも異議を唱える者をすべて敵と見なし、組織を挙げて徹底的に攻撃を加えるという独善的攻撃体質です。

◇池田大作を宣揚するために、全国の会館に「池田」の名をつけたり、会員に「Jセンセー、センセイ、わーれらのセンセイ」などという歌を唄わせていました。

また、創価学会の実態を物語るものとして、次のような事例があります。

◇平成十二年六月八日、フランス国営テレビ（チャンネル2）は、『創価学会―二十一世紀のセクト』と題するドキュメンタリー番組を放映し、「創価学会は、フランスでは、セクトの中で危険なものの一つ」として紹介しました。

◇平成十三年三月七日付の毎日新聞朝刊一面トップに、  
「外務省が一九九三年に在オーストラリア日本大使館に対して行った内部査察で、大使館員が公金二百数十万円を流用した事実をつかんだにもかかわらず、処分を見送っていた」  
との報道が掲載されました。この外務省の公金流用事件について、駐レバノン特命全権大使であった天木直人氏は、その著『さらば外務省』（平成十五年発行）の中で、

「公金流用の事実が発覚することだけではない。出納管理のE公使が、創価学会の青年部

幹部であることは周知の事実である。自分の息子を大作と名づけるほどの忠実な池田大作信奉者のEが、もしYと共謀して公金を流用していた事実が明るみに出たらどうなるか。こまるのは外務省にとどまらない。これはなんと少しでも隠し通さなければならぬと考える組織が、外務省の他にもあったとしたら。そして、その勢力が小泉政権と談合して、本件を闇に葬ったとしたら。奇しくも、調査委員会の指揮を執った荒木副大臣は公明党の参院議員である（二一〇ページ）

と、熱狂的な創価学会信者の姿と、公明党・創価学会に対する疑念を記しています。  
◇創価学会を脱会した人の多くが、  
「創価学会が世間から不審な目で見られていたことがわかった」  
「自分が周囲から異常集団の一員と見られていたことがわかった」

「脱会したことを周囲の人が心から喜んでくれた」  
「心おぎなくつき合える友達ができた」  
などと、脱会後の感想を述べています。

このような創価学会の姿を、あなたは異常と思いませんか。

## 敵対者を弾圧する創価学会

創価学会には、「敵対者の存在を許さない」という根強い体質があります。

特に脱会者に対しては、「自殺するまで追いつめる」などの指導を行い、尾行や盗聴、暴行を加えるなど、さまざまないやがらせを行っています。

このように、自分と対立する者に対して、憎悪の念をもって攻撃し、口を封じようとする創価学会の体質は、ヒトラーやスターリンが国民に対して言論統制を行い、政敵を弾圧し、粛正（しゅくせい）したことに相通するものがあります。

### 【資料】

◇創価学会員による日蓮正宗寺院への放火未遂事件

「被告人は、宗教法人創価学会の会員で日蓮正宗法照寺の執り行う行事などに参加していたが、創価学会が日蓮正宗及び法照寺から不当な仕打ちを受けたと考え、法照寺に対する恨みを募（つ）の（ら）せ、この際、同寺に乱入した上、住職らの関係者の面前で同寺に放火して遺恨を晴らそうと考えるに至った」（横浜地裁横須賀支部判決）

◇創価学会婦人部幹部による恐喝事件  
「静岡県富士宮署は（中略）創価学会高松本部婦人部副本部長、主婦Hを恐喝未遂の疑いで逮捕した。調べによると、Hは（平成四年四月）二十日午後三時ごろから二十数回にわたって、同県富士宮市上条の日蓮正宗総本山大石寺に『境内に爆弾を仕掛けた。三億円を用意しろ』などと電話で脅かした疑い」（読売新聞平成四年四月二十二日付）

◇創価学会を脱会した元公明党福井県議会議員T氏へのいやがらせ（テレビでも放映された）

「電話の声（さんざん皆の世話になって、殺してやるうか、この野郎！ポケ！）」（創価学会の光と影二五ページ）

## 正法の持者を誹謗する創価学会員は無間地獄

法華経『法師品』に、  
「是（こ）の法華経を誦誦（どくじゆ）し持（た）も（つ）こと有らん者に（須臾（しゆゆ）も悪言（あくげん）を加えんは其（そ）の罪復（また）彼に過ぎん」（法華経三二四ページ）

とあり、日蓮大聖人は『松野殿御返事』に、  
「法華経を持（た）も（つ）者は必ず皆仏なり。仏を毀（そし）りては罪を得るなり」（御書一〇四七ページ）  
と仰せられています。

すなわち、日蓮大聖人の仏法を正しく行ずる日蓮正宗の僧俗に向かつて、悪言を加えることは重大な罪を作ることになるのです。

創価学会では、さかんに「御書根本」といいますが、「法華経を持つ」御法上人をはじめとする宗門の僧俗に対して、悪言を加え、誹謗中傷する創価学会の、どこに「御書根本」の姿があるのでしょうか。それだけでも御書に背いていることは明らかではありませんか。

法華経『譬喻品（ひゆぼん）』には、  
「経を誦誦し 書持すること有らん者を見て 軽賤憎嫉（きやうせんぞうじつ）して 而（し）か（も）結恨（けっこん）を懐（いだ）かん（中略）其（の）人命終して 阿鼻獄に入らん」（法華経一七六ページ）  
とあります。

これらの経文や御書に照らしても、正法を継承される御法上人及び宗門の僧侶を恨んで誹謗し続ける創価学会員の罪は重大であり、無間地獄にあつて永劫に苦しむことは間違いないのです。  
『折伏教本』より抜粋